

受験生の夏の課題は、基礎固め！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

暑いが続いてくると、毎日が重くなってきます。自分が受験生ということは解っていても、思うように学習が進まないということがよくあります。「目標」を見失うということなのですが、何をやって良いかわからなくなるということです。受験勉強の最後は、やれることからとにかくやろうということで、何とか「頑張った！」という結論になるのですが、問題は誰でも真剣に取り組めば獲得できるような基礎的な内容をつい獲得の努力を怠るということです。「不得意科目」を食事の偏食と同じように自分の特質ととらえてしまうことが多く、それは間違っています。不得意科目ができる理由はいくつかありますが、本人が言うように「頭がわるいから！」というのほとんど当たっていません。①内容をわかっていない。②内容にほとんど興味がない。だからテキストを読むこともない。③授業を聞いてほぼ理解しても、それをインプットするための努力をしない。④①②③を授業中でほとんどやれてしまう生徒でもあと1歩の努力をしないと定着する前に忘れる。良く頭が良いのに点数がとれない多くの生徒は④に属する生徒です。

つまりこの④までの状況を打破し、勉強自体に自信が持てるレベルに行くための試練が「受験」ということになります。「受験」はそういう意味では必要なことです。専門的な知識は受験の後の「学習」で獲得するものだけれど、受験が要求するものは、その専門的な知識を得るために必要な基礎学力を獲得するというものです。

教育改革によってさらに「基礎学力」はレベルアップしていくように思われます。

英語は4技能、他の科目は記述力と単なる知識にとどまらない本当の学力づくりが提起されています。でも今まで勉強していたものがなくなるというものではありません。

まずは夏の課題を再確認しましょう。基礎的な内容をきちんと理解し獲得することが夏の目標です。基礎内容を獲得する方法をまずは考えよう。覚えられないという人はどうしたら覚えられるのかを真剣に考えてみよう。何が書いてあるのかが、どう考えても理解できない人は、まずは「読む」ということを考えることです。つまり「読んでいない」ということに気がつかないといけないのです。きちんと読んで、覚える方法が見つかれば知識の獲得は出来るようになります。やっかいなのは、「考えて解く」のが苦手の場合です。この場合は前の理解がないと次の理解が得られないことも考えられるので、さかのぼってもう一度やり直すことが必要になります。時間がたくさんある「夏期」がチャンスということなのです。夏における塾の役割はこの基礎獲得に向けてのコーチングです。

夏期講習 夏期合宿 短期集中ゼミの中でも追求していくものですが、そこにどうしても本人の自覚が重要です。前半が涼しかった分、猛暑が厳しく感じますが、この夏を意識してやりきりましょう。夏ばて気味の人も、「わかりきっていることをきちんとわかる！」レベルをまずは目指しましょう。先生たちも頑張ります。